

## 大阪市立住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」の再開にあたって

大阪くらしの今昔館は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を防止する目的で、2月29日から長期に休館してきました。この間、常設展や特別展を楽しみにしていただいた方々に、たいへんご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

今昔館は開館以来、小さくても他所にないミュージアムを創ることを目指し、大阪の生活文化を体感して学んでいただくために、さまざまな催しを行ってきました。しかし新型コロナウイルスの流行によって、今昔館の魅力であった、人とモノ、人と人のつながりについても見直しを余儀なくされています。

休館中は、ホームページに企画展の紹介や「今昔館のオンライン まなびプログラム」を立ち上げ、不十分ながら今昔館の情報を発信してきました。しかし、博物館の魅力は何といてもモノの展示にあり、今昔館も例外ではありません。今昔館らしさを失わない展示とは何かを考えながら、再開時のシミュレーションを重ねてきました。

そして、いよいよ常設展示と企画展示を再開することになりました。しかし休館前の展示にもどることはできませんでした。高齢者や家族連れの来館者が多い今昔館では、感染症対策を施した安全、安心の空間を確保することが第1の目標となり、触れる展示（ハンズオン）や芸能鑑賞などの開催はたいへんむずかしい状況にあります。ただ、江戸時代の町なみの環境演出や近代大阪の展示は変わりなくご覧いただけます。企画展示も「和紙の建築模型」展で重要文化財「大工頭中井家関係資料」を紹介します。入館時にマスクの着用や手の消毒をお願いするなど不自由をおかけしますが、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

歴史を振り返ると、天神祭は疫病退散を願う年中行事でした。大阪にとって、新型コロナウイルスの禍中にこそ、大切な行事です。今年のお天神祭は、大阪天満宮で神職のみの神事が行われ、陸渡御・船渡御などは中止になりました。今昔館の常設展示室では、江戸時代の天神祭の町の風景を再現しています。どうぞ今昔館にお越しいただき、疫病退散を願う庶民の思いに触れてみてください。

それでは、今昔館の展示室でお目にかかることを楽しみにしております。準備が整うまで、今しばらくお待ちください。

令和2年5月18日

大阪市立住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」 館長 谷 直樹